



平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）
国語	- 全体的には全国平均正答率を下回っている。 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、正答率が高い。 「話すこと・聞くこと」領域については、正答率が高い。
算数	- 全体的には全国平均正答率を下回っている。 - どの問題に対しても回答している。無回答率は0%である。 - 筋道立てて考え、その過程について順を追って回答していく問題に課題がある。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
- 朝食を毎日食べていると回答した子どもが100%であった。「朝ごはん」は、6年生全員に定着していると言える。 - 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思っている子どもが100%であった。6年生全員、国語科学習の意義が分かっていると言える。 「人の役に立つ人間になりたいと思う。」と回答した子どもがかなりいた。今後も、道徳科や特別活動等で子どもに意識させていく。 「将来の夢や目標をもっている」と回答した子どももかなりいた。今後もキャリア教育等を推進していく。 - 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりの学習時間について、60分以上と回答した子どもの割合は、昨年度と比較し増えたものの、半分程度の子でもあった。学年の発達の段階に応じた学習時間を家でも行うよう、指導や声かけを続ける。 「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」について肯定的な回答をした子どもの割合が多い。地域、家庭と学校との連携があつての数値と考える。 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」で肯定的な回答をした子どもが100%であった。今後も体験的活動を充実させ、達成感を味わわせていく。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- 基礎的・基本的学習内容の定着に向けて、朝の学習時間を活用するとともに、家庭学習の課題の出し方を工夫する。
- 漢字の習得、語彙の拡充、四則演算の定着などを意識した、家庭学習の課題を出す。
- 2年生のかけ算九九の暗唱については、学級担任だけでなく他の教職員も関わり、2年の内に定着できるようにする。
- 読書指導の充実を図る。各学年週1回の読み聞かせを継続し、子どもの想像力を高めるようにする。
- 音読の活動を位置付ける（学習中の教材文や音読暗唱ブック「ひまわり」の活用）。
- 4年生以上全児童参加の「放課後いちまる学習塾」を保護者の理解と協力を得て、今後も計画的・効率的に実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 「早ね・早起き・朝ごはん」について、学校だより、保健だより、PTA理事会等を通じて、今後も周知する。
- 歯磨き習慣について、関係機関の協力を得て集中的に取り組む（3・5年生）。他学年についても、指導や声かけを続ける。
- NIE実践指定校であることを知らせる。高学年の子どもには学校で新聞を読ませる取組を行う。新聞活用の成果を校内掲示する。
- 学習用具を忘れないように、学校でも家庭でも子どもへの声かけを続ける。
- 筆箱の中身を整えさせる（鉛筆、赤鉛筆、定規等、きちんとそろっているか、鉛筆は削られているか、など）。